

おおぞら

社会福祉法人 聖隷福祉事業団
医療保護施設・地域医療支援病院
総合病院 聖隷三方原病院
SEIREI MIKATAHARA GENERAL HOSPITAL

第225号
2026年1月1日発行

発行責任者 山本 貴道
編集者 木部 哲也

<http://www.seirei.or.jp/mikatahara/oozora/>

リレーエッセイ

私の趣味について

伊藤 慎吾

私には様々な趣味があります。ロードバイクで約200kmある琵琶湖一周したり、リサとガスパールの人形を編んだり、1日中ゲームをして過ごしたり、様々です。そんな私ですが、最近小さい時からやりたかった弓道を始めました。

弓道は的前で矢を放ち、当たり前のよう的に当たっていたので簡単そうだなと思っていましたが、実際にやってみると射法八節の動きが難しく、奥が深いことを知りました。射法八節とは足踏み(あしづみ)、



胴造り(どうづくり)、弓構え(ゆがまえ)、打直し(うちおこし)、引分け(ひきわけ)、会(かい)、離れ(はなれ)、残心(ざんしん)という矢を射る際に順序立てて行う8つの基本動作のことです。身体の様々な部位に意識をやり、射法八節通りに動くことが難しいですが、上手く矢を放った時の弦音、的に的中したときの音が最高に気持ち良いです。もし興味がありましたら「弓道教室 浜松」でググってみてください★

おおぞら食事紹介

「お正月の献立」

お正月は、旧年の無事終わりと新しい年を迎えることを祝う行事で、正月飾りをしたり正月料理を食べたりしてお祝いを行います。お正月料理は、豊作を感謝して神様へのお供え物をした「節供」に由来し、新年を迎えるにあたっての五穀豊穡、不老長寿、子孫繁栄など様々な願いが込められ作られているといわれています。日本人にとっては、年に一度の大切な楽しみの料理ともいえます。

毎年元日には、皆さんに安心して美味しく、喜んで食べて頂けるようにとお正月料理を提供しています。



普通食



キザミ食



ペースト食

食べる力、飲み込む力に応じて「普通食・キザミ食・ペースト食」に分け、個々に合った食事形態で提供させて頂いています。これからも喜んでお食事を召し上がって頂けるよう努力していきたいと考えています。

【昼食の献立】

- ・主食 (米飯・お粥・ペースト粥)
- ・炊き合わせ
- ・松風焼
- ・紅白なます
- ・水ようかん

栄養課 管理栄養士
：原・青木

「療養介護について」

所長 木部 哲也

昨年11月に行われた重症心身障害福祉協会東日本施設協議会において「療養介護をめぐる厚生労働省等の検討について」の話題提供がありました。そこで検討されている療養介護の見直しの結果次第では、施設の療養支援が大きく変わる可能性があります。今回の、ここで示された課題について、これまでの経緯と論点をまとめておきます。

療養介護とは、医療的ケアが必要な障害がある方で、常に介護を必要とする方に対し、主に昼間において、病院において行われる機能訓練、療養上の管理、看護、医学的管理のもとに介護及び日常生活上の支援を行うもので、医療機関の入院生活を支えるための障害者総合支援法に基づく障害福祉サービスです。平成24年施行の障害者自立支援法のつなぎ法において、重症心身障害施設は廃止され、満18歳未満は児童福祉法下

の医療型障害児入所施設とし、満18歳以上は障害者自立支援法下の療養介護事業所となりました。平成29年3月に医療型障害児入所施設と療養介護事業の一体運用、継続運用(いわゆる「児一貫」)が恒久的な仕組みとして認められました。ただし、その前提として、重症心身障害者に対して、年齢・状態に応じた適切な日中活動を提供していくこと、在宅生活支援(短期入所など)にも積極的に対応することが課されました。

これらの背景には、障害児・者の権利擁護の考え方があります。「児一貫」体制は、一部では「施設が」成人になっても何でも扱っている」との批判があったようです。小児の発達支援の延長の療育ではなく、成人にふさわしい支援、ガイドラインの策定など療養介護の質を担保する取り組みが求められました。また、入所者の高齢化により、合併症の増加・重症化や原疾

患の重症化が進行し、より高度な医療支援を必要とする中での生活支援、意思決定支援、看取りへの対応なども求められました。更に、人口減少に伴い入所利用者数と就労人口の減少が予想され、現在の体制では継続困難となる、在宅支援が充実してきた結果、入所施設は最後の砦ではなくなった、在宅支援を行う必要がある、との考えもあつたようです。

療養介護のあり方に関する論点として、地域移行の推進があります。施設入所が地域からの切り離しに繋がるという意見です。平成26年に障害者権利条約を批准し、令和4年9月に対日審査での総括所見において、勧告事項の一つとして「障害者の脱施設化及び自立生活援助」が盛り込まれました。これを受けて、いくつかの障害児入所施設について、地域移行に向けての努力を点検する目的で、調査が開始されているとのこととです。

令和3年度の報酬改定により療養介護利用対象者の要件として、医療技術の進歩や利用者の多様化に対応するため、「医療的ケアの必要性」に基づく対象範囲が



苦情解決委員会

2025年7月～2025年9月期間中 受付した苦情1件 (期間中受付した苦情1件でした)

期日	苦情内容	期日	苦情解決の結果
8/26	【あさひ生活介護】 担当の相談支援専門員より電話連絡があり、ご家族から、8/19のあさひ利用後、自宅でも右肘にあざをみつけたが、あさひで思い当たることがないか確認してほしいとの依頼があったとの内容であった。事業所内で確認したところ、8/19の受入後同位置にあざを確認したが、帰宅時にご家族に伝えていないことがわかり回答した。そのためご家族より、発見した時点で連絡がなかったことについて苦情の申し出があった。	8/26	担当課長がご家族と面談をして、あざを見つけた時点で報告をしなかったことについて謝罪いたしました。今後は変化を見つけた時点でご家族に連絡をすることを約束いたしました。

	8月	9月	10月
ショートステイ利用者数 (延べ利用日数)	57人 (266日)	48人 (238日)	54人 (281日)
放課後デイ利用者数 (延べ利用日数)	18人 (127日)	19人 (102日)	18人 (97日)
実習者数 (グループ数)	3人 (2グループ)	1人 (1グループ)	0人 (0グループ)

あおばの 日常活動紹介

古橋 美春

日中はAさんの体調や状況に応じて、リビングに出て過ごしています。Aさんがリビングを見渡すことが出来て、職員の動きや他利用者を感知される場所で、職員とのコミュニケーションを楽しんでいる様子が見られます。

日常活動では、職員の手操作により変化していく様子に注目する活動として『ドミノ倒し』を行いました。ドミノを並べて倒れる様子をAさんがみることが出来るような向きに並べ、最後に鈴を置いて全て倒れると鈴が鳴るといふ変化をつけて行いました。ドミノを一つ一つ並べていくときに、声を出しながら見ていました。全て並べ終えてAさんの方をみると「できた」と言っており、ドミノを倒すと、倒れていく様子をじっと見て、最後の鈴に当たると少し目を大きくさせていました。他のドミノを避けて慎重に並べ、最後まで並

べきる職員の手元に注目していました。ドミノが倒れる様子も注目して見ており、最後に鈴が鳴る変化も感じていました。

語りかけでは、フレーズの繰り返しと場面の雰囲気の変化がある語りとして「やまびこのびこやまさん」を語りかけました。「やっほー」と繰り返しされる部分は職員と一緒に声を出して行いました。「つらいよ」「たすけてー」と繰り返しフレーズが続くと表情を緩めて本に視線を向けて行いました。「つらいよ」「やっほー」を繰り返すので職員が徐々に声を小さくすると、その後の繰り返し部分でAさんも声を小さく出していたり、左から右へ視線を動かしてそれぞれの絵を見ていたりして行いました。「がんばるぞーがんばれー」のところでは表情緩めたり、一緒に声をだしたりして行いました。「やっほー」や「がんばるぞーがんばれー」のような抑揚が繰り返される語りがあって良かったように感じました。それぞれの場面の雰囲気の変化や言葉の意味も理解して聞いて行きました。一つ

つらいよ…たすけてー…は職員の声のトーンが下がりが静かな語りを感じながら絵もよく見て行きました。

歌いかけでは高音域への変化がある、リズムカルに続く擬音語のある歌を歌いました。職員が歌い始めるに声を出したり口を動かして歌って行きました。「しゃぼん玉」では、「かぜかぜふくな」の高音域への変化を感じて、目を大きくさせたり口の動かし方を変えて行きました。「とばそ」では、リズムに合わせて声を出して行きました。「山の音楽家」では、「キョキョキョキョ」では口を左右に動かして、「ポポロン」では口をパクパク動かして行きました。擬音語毎によって口の動きを変えて、擬音語のリズムに合わせて歌うのが良いように感じました。

今後もAさんが日々の生活の中で楽しいと感じる時間や笑顔を引き出せるような関わりをしていきたいです。

おおぞら クリスマス会

松林 裕

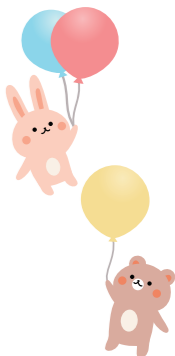
12月15日に『おおぞらクリスマス会』を開催しました。今回は、御家族もお招きしての実施となり、多くの御家族に参加して頂きました。数年ぶりに、大々的に行われる事もあり、数ヶ月前から企画係で話し合いを重ね準備をしてきました。感染症の心配もありましたが無事に開催することができました。



ジにて、トーンチャイムの演奏や職員バンドによる演奏も行われました。曲によっては手拍子も起こり会場は大盛り上がりでした。エレベーターホールに出られなかった利用者の為に、各号館に出向き、演奏も行われました。さらに、5店舗の出店協力があり、雑貨やお菓子などの物販も行われました。これからも御家族や近隣住民の方も一緒に楽しんでくれるような企画を実施できればと思います。

ひかりの子 運動会

10月10日にひかりの子で運動会が開催されました。選手入場、みんなでラジオ体操をして、いざ競技へ。ボールプールやトンネルくぐり、職員VS保護者の風船玉入れ。最後はみんなに頑張った証のメダル授与。みんな元気いっぱい、笑顔いっぱい頑張りました！



ひかりの子 クリスマス会

12月19日ひかりの子で新しいお友達も参加してのクリスマス会が開催されました。ジングルベルの歌に合わせて、バランスボールで揺れを感じたり、活動で手作りしたランタンの光を楽しんだりしました。また、保護者も参加して、グループに分かれての感触遊びやクイズやハンドベルの演奏と大いに盛り上がりました！最後は、サンタさんにプレゼントをもらいました。とっても素敵なクリスマス会でした。

